

## Contents

- ▶ 文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定
- ▶ 四日市大学と菰野町・東員町との包括連携協定締結
- ▶ 伝統的な祭りに学生たちが参加
- ▶ 「環境保全とツーリズム／観光政策」の合宿
- ▶ 海洋データ収集のための伊勢湾海洋実習を実施
- ▶ 顕微FT-IR装置によるマイクロプラスチック分析
- ▶ 吉崎海岸清掃後の勉強会を学生が担当
- ▶ 日本自動車連盟（JAF）のコンテストで優秀賞獲得

## 文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定

8月24日（水）、本学の「データサイエンス・リテラシープログラム」が、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。この認定制度は、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し、大学等の正規の課程で、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定して奨励するものです。三重県下の私学で唯一の認定となった四日市大学では、データサイエンスの基礎的な素養と心得とを身に着けた人材の育成を目指し、全学生を対象としたデータサイエンス・リテラシープログラムとして設置しています。今後もデータサイエンスやAIを業務や日常生活で活かす基礎的な素養と心得を身に着けて活躍できる人材を育成します。



認定の有効期限  
令和9年3月31日まで

## 四日市大学と菰野町・東員町との包括連携協定締結



菰野町の柴田町長（左）と  
岩崎学長（右）

8月10日（水）に菰野町、9月21日（木）に東員町との包括連携協定が締結されました。本協定は、本学と各町が有する人的・知的・物的資源を活用し、幅広い分野で連携及び協力することにより、地域を担う人材育成と新たな価値の創造による地域社会の発展に寄与することを目的としています。締結式では、菰野町の柴田孝之町長、東員町の水谷俊郎町長が四日市大学の岩崎恭典学長と協定書に署名しました。今後、菰野町とは自治体職員も含んだ一般市民向けの記念講座を予定、東員町とは学生にも町づくりに参加してもらえらる場を作り、新たな共同事業を模索していく予定です。



東員町の水谷町長（右）と  
岩崎学長（左）

## 伝統的な祭りに学生たちが参加



鯨船を担ぐ学生たち

8月14日（日）と15日（月）に四日市市富田地区でユネスコ無形文化遺産「鳥出神社の鯨船行事」が開催されました。四日市大学では「祭りともちづくり」の講義を通して、これまで鯨船保存会の方などによる座学、大入道山車と鯨船の組み立て見学や祭礼などにも参加し、地域の伝統的な祭りの意義と保存・継承について、若者が果たす役割を考えってきました。3年ぶりに開催された今年の祭りでは、鯨船の担い手たちの勇壮な声が久々に町内に響き渡りました。初日に行われた行事の無事と町の平安を祈る「鎮火祭」や「町練り」、翌日に行われた「本練り」では、担い手が少ない中島組に本学の学生18名が協力。中島組の神徳（じんとく）丸を担いだ学生たちは、鯨の張りぼてと鯨船を同時に回転させたり、順番を待つ別の組の鯨とにらみ合ったり熱のこもった演技を披露しました。

## 「環境保全とツーリズム／観光政策」の合宿

8月30日（火）から3泊4日で正課科目「環境保全とツーリズム（環境情報学部）／観光政策（総合政策学部）」の合宿を行いました。本科目では、事前授業（座学）の後に、学生達が実際に現地に入り、地元の方々と交流しながら地域の特色や課題を知り、その地域の自然環境の保全方法やツーリズム等を通じての地域活性化の方法についての考察します。今回は志摩市観光課と水産課、志摩自然学校、立神真珠養殖漁業協同組合の協力により、現地授業や研修を行い、地域の観光政策や環境保全について学びました。



英虞湾シーカヤック研修

## 海洋調査データ収集のための伊勢湾海洋実習を実施



2009年に始まった海洋実習は今回12回目  
調査船勢水丸の前で記念撮影（松阪港）

8月4日（木）より1泊2日で伊勢湾海洋実習を行いました。コロナ対策で乗船人数が7名に絞られましたが、学生たちは大規模な海洋調査実習に参加し、貴重な経験を積むことができました。乗船した環境情報学部の学生たちは、勢水丸に装備されているCTD装置、ニスキン採水装置、スミス・マッキンタイヤー採泥装置、ベントスネット、ニューストーンネットを用いて調査を実施しました。3年生以下の学生は初めての海洋調査の参加で、最初は戸惑いもあったようですが、観測点を回るに慣れてきて、落ち着いて調査を行うことができました。次回は11月に実施予定です。



今回はB航路（点線）で実習

## 顕微FTIR装置によるマイクロプラスチック分析

環境情報学部の千葉研究室では、伊勢湾の海岸、海域の表層、海底、伊勢湾流域河川や水田、伊勢湾流域の下水処理場からの放流水などに含まれるマイクロプラスチックを調査して、汚染状態やその動態（移動、分解、劣化）について研究しています。近年では伊勢湾産のマイワシやカタクチイワシの消化管内、ムラサキガイの内臓内のマイクロプラスチックについても研究を始めています。7月12日（火）には、岐阜県関市にある岐阜県産業技術総合センターを訪問し、顕微FTIR（赤外分光光度計）を用いて、マイワシの消化管内のマイクロプラスチックの分析を行いました。100 $\mu$ m（0.1mm）程度の小さなマイクロプラスチックをピンセットで摘まんだり、顕微鏡の指定位置に配置して、赤外線が照射されるプリズムに押し当てたりなど、非常に細かな作業が必要でしたが、有益なデータを多数得ることができました。



顕微FTIR装置を用いて分析  
宝亀 稜さん（環境情報学部3年生）

## 吉崎海岸清掃活動後の勉強会を学生が担当

四日市市楠町の吉崎海岸では毎月第1日曜日に清掃活動が行われています。この活動の歴史は長く、10年以上継続しており、本学の環境情報学部の学生たちが開始時期から参加してきました。10月2日（日）の清掃活動は400名近い方々が海岸に集まりました。清掃活動後、千葉研究室の5名の学生が、60～70名の家族連れの皆様にパネルを見せながらマイクロプラスチックの説明や環境保全の勉強会を行いました。子供達と質疑応答をしながら、楽しくてためになる勉強会を行うことができました。



こにゅうどうくんも参加した勉強会  
進行は水野 和毅さん（環境情報学部3年生）

## 日本自動車連盟（JAF）のコンテストで優秀賞獲得



コンテストでのプレゼンの様子  
大西 裕馬さん（総合政策学部3年生）

8月30日（火）に津市の一般社団法人日本自動車連盟（JAF）三重支部が主催する産官学連携「みえ学生ドライブスタンプラリーコンテスト2022」の最終審査会が行われ、本学の旅クラブチームが優秀賞（第2位）を獲得しました。このスタンプラリーは、学生の新たな視点によるドライブ観光情報の発信とドライブを通じた地域活性化を目的としたものです。同法人が、三重県内の4年制大学、短期大学、専門学校に在籍する学生よりテーマを募集し、最終選考会に残った3チームが審査会にてプレゼンテーションを行いました。本学の「旅俱樂部」は、『伊勢志摩個性豊かなオブジェ巡り』というテーマで発表。惜しくも最優秀賞は逃しましたが優秀賞を受賞しました。

※本号は2022年7月から10月までの情報を中心に掲載しています。

